

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【久枝小学校】

<第4学年：川狩り>

授業のねらいは、地域の伝統行事である「川狩り」の疑似体験を通して、地域に住む一員として文化を尊重し、受け継いでいこうとする態度を育てることである。「川狩り」は川で神輿を洗い清める神事であるが、数年前まで、川の水質汚染が問題視され、実施できていない期間があった。それを残念に思い、地域住民が働き掛けて川の水質向上のために動いたり、川には入れなくても祭りを開催することができるように会場を川沿いに設営するよう市に働き掛けたりなどの苦勞の末、やっと実現できたという歴史がある。



子どもたちの疑似体験では、「川狩り」の歴史を地元の青年団自治体の方に聞き、その後ペットボトルでの神輿作り、音頭の練習、川狩り会場の清掃などに地元の方と一緒に取り組んだ。当日は、保護者を含めた多くの地域住民が訪れ、一緒に「川狩り」を体験した。子どもたちは、地域に受け継がれる伝統文化の迫力を実感するとともに、今後も受け継いでいきたいという思いを深めていた。川狩りを初めて知った保護者もあり、地域の伝統文化を知っていただくよい機会となった。



<第5学年：未来のためにできること～久枝キッズのSDGs～>

4年生での「川狩り」の体験で地域の川について関心を高めた子どもたち。川の汚染と同時に、「川狩り」が一時期中断せざるを得なかった事実から、自分たちの手で「川をきれいにしたい」という思いが生まれてきた。そこで授業のねらいを、「住みやすいまちづくりを目指し、自分たちにできることを考え、実践していこうとする態度を育てる」とこととし、SDGsについての学びと重ねながら、地域の川にスポットを当てて取り組んでいった。



まず、自分たちの地域の川がどういう状況にあるのかを調べるフィールドワークや、市が派遣するゲストティーチャーのアドバイスのもと、川の生き物や水質調査、ごみの調査を行った。その後、子どもたちが特に課題であると感じた川のごみ問題について、動画やポスター、クイズなどを作って、校内や他校、地域へ発信した。いろいろな視点から川を見つめるという活動を行ったことで、川への愛着を持ち、地域の一員としての自覚を持った上でSDGsの実践意欲を高めることができた。今後も地域のために貢献できる子どもを育てていきたい。

